

第7章 活用方針と今後の課題

1. サイン整備と各種連携

1-1. サイン整備に向けた各種連携について

■住民、関係団体等との協働

本サイン整備は、サインを設置する場所（空間、景観、エリア）の田園文化情緒を高めることを目的としている。言い換えれば、社（やしろ）のまわりや字レベルでの地域のブランド化を図ろうとするものであり、必要に応じて住民や関係団体からの協力が不可欠となる。意見交換を行いながら設置場所や掲載情報の確認検討、さらには設置後の維持管理体制も含めて、整備に向けた協働体制が必要である。

■観光情報のトータルデザイン（情緒を高める質の監理）

本計画では、サイン整備における「北広島町らしさ」を「田園文化情緒」と設定した。これはサイン整備に限らず、観光を含めた広報においても、一貫したメッセージとして表現していく必要がある。WEB、パンフレット、観光マップ等の情報およびイメージの統一を図りつつ、その情報クオリティ（色使いやビジュアル、写真表現等）が、「田園文化」を情緒豊かに伝えるものとなっているかどうか、細かく気を配っていく必要がある。部署を超えた連携を密に図りながら、町外の人たちに町の魅力を質高く伝える総合的な情報コントロールを意識的に行っていくことが必要である。

1-2. 田園文化情緒を高める活動の継続

■情報の精査と景観保全

「北広島町ふるさと百景」の募集等を通して新たな田園景観資源の発掘を推し図ると同時に、多彩な観光スポットの中から、田園文化情緒のクオリティをより高く表現できるものを精査して選んでいくことが必要である。また、田園文化情緒を疎外するような人工物の撤去、あるいは抑制活動も継続的に実施していくことが必要である。

■イベントの連携

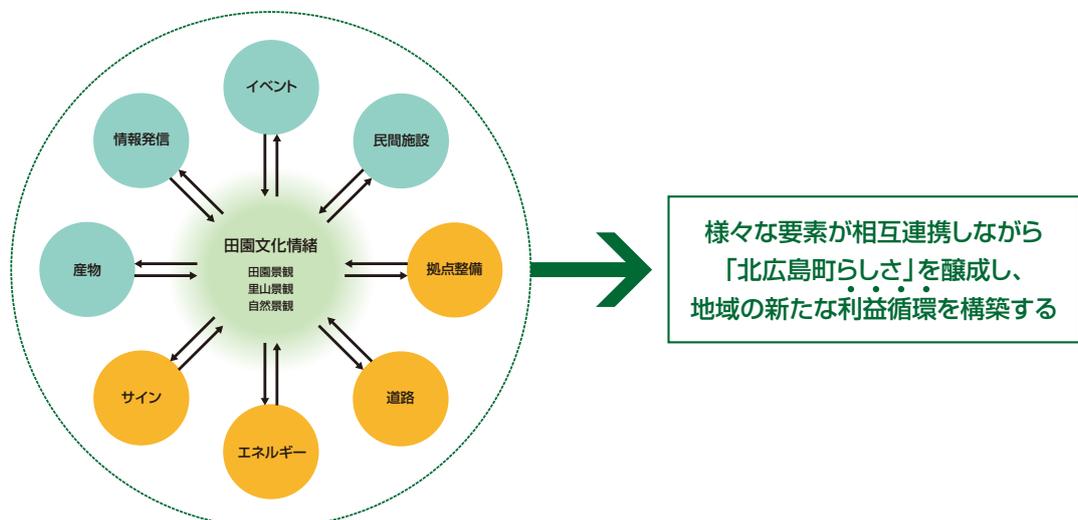
農山村体験交流プロジェクトや各種田舎体験講座等のイベントを始め、古民家や寺社の開放など、都市部では体験できない様々なアイデアの発掘も田園文化情緒を核としたブランド形成につながるものである。北広島町の日常に潜む、都会からの非日常体験のイベント発掘・企画運営も継続して行っていくことが有効である。

■田園景観を楽しんでもらうための新たな事業整備

北広島町では自動車での移動が観光の基本となるが、美しい田園景観をゆっくり休みながら眺めてもらえる場所がきちんと用意されていない。昔の旅人が一息ついた街道沿いの小さな茶屋のように、田園風景を前に一休みできるような「景観の駅」の設置や、ちょっとした駐車スペースの整備が沿道で行われることが望ましい。

1-3. 誇りを持ったブランド形成意識の徹底

サイン整備をはじめとした上記の活動を推進するには、ブランド形成に対する意識を住民・行政の両者が一体となって共有しておく必要がある。それは、北広島町の誇りを町内一丸となって感じ合うことにほかならない。美しい田園文化の継承と保全に誇りを感じながら住民全員が取り組んでいけるよう、徹底した意識の共有が必要である。



2. メンテナンス

2-1. メンテナンス方針

北広島町におけるサインのメンテナンスには、一般的な「本体のメンテナンス」と「情報のメンテナンス」と、地元と一体になって取り組む必要がある「田園文化情緒をつくるサイン整備に係るメンテナンス」がある。

1) 本体のメンテナンス

■定期的な清掃・点検:年に1回程度

<清掃>

- ・定期的な水洗いと乾拭きを行い、大気中の成分による腐食を防ぐ。
- ・汚れがひどい場合には、家庭用の中性洗剤を薄めて使い、その後よく水洗い、乾拭きし、水気を取り除く。
- ・張り紙や落書きなどを取り除く。
- ・軒下など水洗浄されない部分や大気中の煤煙が多い場所は、清掃回数を増やす。

<点検>

- ・ガタツキ・ボルトの締め付け状況を確認、修繕を行う。
- ・破損や傷などの状況を確認、修繕を行う。
- ・傷などによる塗装の部分的な剥がれについては、塗装補修を行う。

■印刷シートの交換(歩行者系サイン):適宜

■本体の修繕・交換:適宜

2) 情報のメンテナンス

■情報の追加:公共性の高い施設が建設された場合など

- ・変更内容を印刷したシートやカットシートを、表示板に部分的に貼り込むことで対応する。

■表示板(印刷シート)の取り替え:道路や大規模な施設の建設が行われた場合など

- ・表示内容が大幅に変更する場合は、表示板(印刷シート)全体を取り替える。

■情報内容の一元的な管理:適宜

- ・サインを常に機能的に保つためには、情報をデータ化して一元管理することが重要。(和英名称一覧、ピクトグラム等)

3) 田園文化情緒をつくるサイン整備に係るメンテナンス

■背景のメンテナンス

- ・田園文化情緒をつくるサインは景観と一体となって魅力的に見えるため、定期的に周辺環境の手入れを行う。
(下草刈り、間伐、清掃)

■イベントのためのメンテナンス

- ・神楽など田園の社でおこなわれるイベント時には幟旗を掲げるなどの演出を行う。
(地元での雰囲気盛り上げることが必然的に観光演出になる仕組み)

※以下、本計画の中でサイン整備重点地区として設定した八幡地区を例に挙げて仮に設定する。

■筐体材の確保と里山の保全

- ・木材を主としたサインを整備・更新していくために筐体材の確保と里山の保全を結びつける。
- ・ゲートサイン等の大型の丸太を用いるものは10年ごとに建て替える(鎮守の森ならぬサインの森の形成)
- ・薪活と連携することで潤沢な材木資源を確保する⇔薪活の活動範囲の拡大にも貢献する。

■季節とともに地域で見守る

- ・サイクリングロードの回遊サインは冬場は撤去し保管、雪解けとともに設置する。
- ・除雪車稼働時の約束事を地域内で定める。

3. 持続可能な地域づくりに向けて

3-1. 地域コンシェルジュの必要性 - 循環する地域づくり -

■「田園文化情緒」による北広島町らしさの形成の意義

「田園文化情緒」に基づく景観形成を進めることによる恩恵は観光振興だけでなく、農水産品にとっては魅力的な背景を擁したブランド化による付加価値の提供や、八幡地区におけるケーススタディに基づくストック材の利活用と技術開発、さらには流通経路の開発など、様々な可能性を秘めている。

- ・ 田園文化観光振興
- ・ 農水産品への付加価値提供 — 都市部への直接流通
- ・ 木材を利用した技術開発（都市内木造実現のための耐火技術・アセチル化を含めた防腐防蟻技術）
- ・ 広葉樹等ストック材の市場流通経路の開発
- ・ 地場産業・各種組合の連携強化と発展

■サイン整備重点地区を選定することによる地域循環型の生産体制の確立

「田園文化情緒」を意識しながらその場所ごとにふさわしい環境をつくるためには、様々なモノを市場に出回っている“カタログから選ぶ”のではなく、地元でものづくりを行い地元でメンテナンスをし続けるような地域循環型の生産体制が大切になる。

■地域コンシェルジュの必要性

上記のように地域内の資源・技術・産業の活用と、市場とを結びつけながら地域づくりを推し進めるためには、その窓口となるとともに自ら営業、または事業を興していくような役割を担う“地域コンシェルジュ”が必要である。同時に行政組織が様々な公的案件についてもスムーズに依頼ができるような関係づくりが重要である。

